

脱炭素水酸化アルミ活用

アルハイテック UAEで実証調査

環境ベンチャーのアルハイテック（高岡市オフィスパーク）は、廃アルミからアルミ水素を生成する際に副生物として出る水酸化アルミをアルミ製造工程に還元することで、脱炭素や資源循環につながるかどうかを、アラブ首長国連邦（UAE）で実証調査する。同

社が20日発表した。

新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が事業を採択し、実現性や普及の可能性を首都アブダビで2024年3月末まで調べる。総費用は約2千万円。今回の調査は第1段階で、有望事業と判断されれば第2、第3段階の助成を

得られる。

産油国が石油依存からの脱却を図る中、アルミ生産が盛んなUAEは化石燃料に代わりアルミチップを輸出し、日本を含む世界各国から水酸化アルミを輸入することで、アルミ業界全体のグリーン化に貢献することを目指す。アルハイテックは将来的にインドやカナダ、オーストラリア、ベトナムへの展開も視野に入れる。

実証調査は、元の製品よ

り品質が低下したり、不純物を生成したりするといったアルミリサイクルの課題の解決につながる可能性もあるという。水木伸明社長

は「脱石油に向けたテクノロジーを日本からUAEに送り出してもらえれば、両国の利益になると期待している」と話している。